

政府による情報の極秘収集活動に対する新たな懸念の広まり

別府 三奈子*

米国におけるマスメディア情報の研究・教育は、2013年度も広範囲に行われている。ここ数年、国家機密と言論の自由の兼ね合いに関する集中的な検討が続いていたのに対し、今年度は技術革新に対応するための研究や、広告や広報などをテーマ化したものにも勢いがあった。⁽¹⁾しかし、言論の統制や表現の規制に対する自由主義の意義を確認する研究領域での危機感は変わっていない。

ワシントン D. C. で開催されたジャーナリズム&マス・コミュニケーション教育学会 (AEJMC) の年次研究総会では、民主社会を支えるフリースピーチの重要性について、ロード・アンソニー・レスターが、健全な批判を抑え込む名誉棄損訴訟を抑制するべき、との方向での基調講演を行った。

刻々と開発が進む技術を駆使した取材の手法の開発と、変化する情報社会総体におけるジャーナリズムの有るべき姿を探求する研究も、様々な角度から試みられている。

■元 CIA 職員による内部告発と極秘情報収集への懸念

ジャーナリズムに関わる現象面では、注目を集める出来事が続いた。

米国国家安全保障局や CIA に所属し、機密情報を扱っていたエドワード・ジョセフ・スノーデンの内部告発は、大きな話題となった。本人は現在、ロシアに滞在中といわれている。その告発によって、米国政府が同盟国を含む 38 か国の大使館の盗聴や、6 万件以上のハッキングを行っていたことが明るみにでて、各国政府が対応に追われた。

イギリスのガーディアン紙などにもちこまれたこの内部告発は、ネット社会において公権力によるビッグデータ収集の規模の大きさを改めて世界に知らせ、‘テロとの戦争状態’の日常を示している。

5 月には、米国司法省が AP 通信の支局などでの通話記録の収集を無断で行っていたことが明らかになり、FOX ニュース記者の通話記録も公務員の情報漏えいの基礎の際に収集されていることなどが認識された。

こういった出来事から、米国ジャーナリズムの番犬機能が弱まっているとの批判がなされている。国家の安全と情報の自由な流れのありようについて、どのような関係性を築くべきか。そのルール再構築の必要性が、ジャーナリズムの現場でも研究の場でも認識され、意見交換が続いている。

■続く新聞社業界の地殻変動

伝統的なジャーナリズムの核を担ってきた新聞業界では、再編が続いた一年でもあった。もっとも大きな話題は、ワシントン・ポストの同族経営に終止符が打たれ、アマゾンの創業者に売却され

*べっふ みなこ 日本大学法学部新聞学科 教授

たことだろう。ニューヨーク・タイムスが、サルツバーガー家による経営によってようやく黒字になってきたのとは対照的な展開は、ウォーターゲート事件などで名を馳せ、1970年代に米国ジャーナリズムの黄金期を作ったといわれるワシントン・ポストだけに、ジャーナリズムメディアとしての、ひとつの転換期として話題となった。オンライン・ジャーナリズムによる補完を模索し続けてきたワシントン・ポストの事例は、オンライン・ジャーナリズム単体での成功例としてのハフントン・ポストなどが出現する現状を考えれば、明暗ともいえよう。

研究の領域では、メディアの転換期におけるジャーナリズムのありようを追跡する研究は、さまざまに続いており、参考になる。例えば、ネットのみから社会的出来事を収集している人びとより、新聞メディアを通して情報を得ている人びとのほうが、社会的に争点化された話題に敏感であるという結果を導きだしている実証研究⁽²⁾などは興味深い。

■研究における広がり：普遍性の追求と最先技術志向

ジャーナリズム&マス・コミュニケーション教育学会の奨励研究では、ネット時代における事実追求に関する検証が陸続と行われている。フーダム大学のベス・ノーブルが行っている「インターネット時代にいかに取材の説明責任を果たすか—番犬機能を顕在化させるために」といった研究や、バージニア・コモンウェルス大学のマークス・メスナーとペンシルバニア州立大学マルシア・ディスタツォが行っている「ウィキドクター」の検証なども、その一例である。

ジャーナリズムの規範理論研究のフレームそのものには、大きな変化がない。自由と責任の境界線をどうとるべきか、あるいは、読者のニーズとジャーナリズムの原理の折り合いをどうつけるのか、といった普遍的テーマでの研究が続いている。

例えば、インディアナ大学のエミリー・メツガーとビル・オーナデイが取り組んでいる研究では、ハッチンス委員会が1947年に提唱したマスメディアの社会的責任論について、現在の米国マスメディアでどうなっているかを探る実証研究となっており、責任に重きを置く傾向性が導き出されている⁽³⁾。

注

- (1) Fred K. Beard, A History of Comparative Advertising in the United States, *Journalism & Communication Monographs*, vol.15, No.3 Fall 2013, Tim P. Vos and You Li, Justifying Commercialization : Legitimizing Discourses and the Rise of American Advertising, *Journalism and Mass Communication Quarterly*, vol.90, No.3 Autumn 2013, 等
- (2) Ying Roselyn Du and Joann Wong, Greater Newspaper Use Increases Agreement on Public Issues, *Newspaper Research Journal*, vol.34, No.3, pp.60-71, 2013
- (3) Emily T. Metzger and Bill W. Hornaday, 'Leaving It There? The Hutchins Commission and Modern American Journalism', *Journal of Mass Media Ethics*, 28:555-270, 2013